学校番号	1006

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	よくわかる　新編　数学Ⅰ　（第一学習社）						
副教材等	新版　ネオパル　数学Ⅰ　教科傍用（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返りよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする数学的活動を行います。
・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけではなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・授業中のノートについては板書を書き写すだけではなく、授業のポイントや自身で気付いたこと、クラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。

2　学習の到達目標

数と式、図形と計量、集合と論理、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を次のように育成する。

（1）数学の計算法則や公式・定理についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に理解、表現する技能を身につける。

（2）日本語で表される具体的な事象からイメージし数式に変換して表現する力とその数式を処理する力、数式、図形やデータから分析する力を養う。

（3）数学のよさや美しさを認識し数学を活用しようとする態度と、種々の問題解決の過程を振り返り考察する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、集合と論理、２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力をもつことができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章　数と式	1節　式の展開と因数分解 1．整式 2．整式の加法・減法 3．整式の乗法 4．乗法公式の利用 5．因数分解 6．式の展開・因数分解の工夫	a：展開の公式や因数分解の公式を用いて、式の展開や因数分解をすることができる。おきかえを利用し、多項式の展開の公式に帰着させることができる。 b：複雑な式の展開について、式の工夫の仕方を判断して式を展開することができる。 c：式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
		2節　実数 1．実数 2．根号を含む式の計算	a：数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と1対1に対応していることを理解するとともに、簡単な無理数の計算ができる。 c：今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。	定期考査		提出ノート
		3節　1次不等式 1．不等式 2．不等式の性質 3．1次不等式の解法 4．連立不等式の解法	a：不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。 b：不等式の性質から、1次不等式の解法を考察することができる。 c：身近な問題について、1次不等式を用いて解決しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート
2学期	2章　2次関数	1節　2次関数とそのグラフ 1．関数 2．y=ax^2 のグラフ 3．y=ax^2+q のグラフ 4．y=a(x−p)^2 のグラフ 5．y=a(x−p)^2+q のグラフ 6．y=ax^2+bx+c のグラフ 7．2次関数の最大・最小 8．2次関数の決定	a：２次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、2次関数のグラフを描くことができる。 b：２次関数が最大値または最小値をもつことを、グラフを使って理解しようとする。 c：身近な問題について、２次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	提出ノート レポート 振り返りシート

		2節　2次方程式･2次不等式 1．2次方程式の解 2．2次方程式の実数解の個数 3．2次関数のグラフとx軸の共有点 4．2次不等式	a：２次関数のグラフの性質を理解し、２次方程式と２次不等式の解法を理解する。 b：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり考察したりすることができる。 c：身近な問題を、２次不等式を用いて解決しようとする。	確認テスト 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	提出ノート レポート 振り返りシート
	3章　図形と計量	1節　三角比 1. 三角比 2. 三角比の利用 3. 鋭角の三角比の相互関係 4. 三角比の拡張	a：鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や鈍角の三角比の値を求めることができる。 b：図形の構成要素間の関係について三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。 c：三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出ノート レポート 定期考査	提出ノート レポート 振り返りシート
3学期	3章　図形と計量	2節　正弦定理余弦定理 1. 正弦定理 2. 余弦定理 3. 三角形の面積 4. 正弦定理と余弦定理の利用	a:正弦定理･余弦定理の公式および三角形の面積公式を理解し、それを用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 b：図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、考察したりすることができる。 c：正弦定理や余弦定理の有用性を認識し、平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。	定期考査	提出ノート レポート 定期考査	提出ノート レポート 振り返りシート
	4章　集合と命題	1節　集合と命題 1．集合 2．命題 3．証明法	a：集合と命題に関する基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 b：ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。 c：具体的な事象で集合を考えようとし、命題について興味をもち取組もうとする。	定期考査	定期考査 提出ノート	提出ノート 振り返りシート

	5章 データの分析	1節 データの分析 1. データの整理 2. 代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 外れ値 5. データの散らばりと標準偏差 6. データの相関 7. 仮説検定の考え方	a: データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、分散・標準偏差および相関関係などの知識を身に付けている。 b: 散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c: 複数の種類のデータを収集することでさまざまな分析ができることに関心をもち、問題解決に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	レポート 定期考査	レポート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度